2010年1月30日箕輪山遭難騒動報告書

1月30日、アダタラ山系の箕輪山・鉄山付近で私と妻が遭難騒ぎを起こしてしまいました。皆様には、本当にご心配をおかけすると共にご迷惑をおかけいたしました。

ここでは、今後の活動に資するためこの騒動の状況説明、反省点、教訓点を明らかにし、かつ、本件について皆様からいただいた意見などをまとめました。なお、本報告にあたり ハンドルネームにて文書化致しますことをお許し下さい。

1. 状況説明

1月30日にHPリンク先のHAMA さん、I-Mach さん、羊さん、なおちゃん、たけちゃんと共に7人パーティーで箕輪スキー場から箕輪山山頂を経て、鉄山避難小屋経由で迷い沢まで滑降し、国道115号線に至るツアーを計画しました。

当日の状況は、スキー場では雪で、風はやや強め。レストハウスには他に1名程スノーシューを背負ったスノーボーダーの姿も見受けましたが、入山は我々の方が先のようです。

スーパーライナー(Cリフト)終点を9:00に出発、箕輪山山頂を目指しましたが、途中強風のため山頂登頂は断念してほぼ等高線に沿って南東に進み鉄山避難小屋へ向かいました。途中、避難小屋到着は箕輪山中腹から鉄山避難小屋の間は、標高差こそほとんどないものの稜線上では強風激しく、かつ、視界は10m程度。稜線上で一度塩沢側(東側)に若干降りてしまいましたが、すぐに気が付いて軌道修正。シュカブラが発達して苦戦しましたが11:07に鉄山避難小屋に到着しました。



箕輪山中腹から鉄山避難小屋に進む様子

避難小屋で昼食休憩後、予定通り迷い沢に向けて滑降準備をしたところ、私の右板のビンディング(テレブル)を固定するネジ4本のうち前2本が抜けかかっているのを発見。 ネジを締め直そうとしましたが、既にネジが利かなくなっており、とりあえず手持ちのアルミ製針金で応急処置を試みました。



赤い針金が応急処置をしたアルミ製針金(板とビンディングに巻き付けた)

針金で仮固定をして避難小屋を12:20に出発。

しかし、通称プロペラの碑の下を回り込んだ辺りでアルミ製針金が切断したため、HAMA さんが所持していたスチール製の針金で再度処置をしました。



吹雪が激しい中の作業の様子

再度出発をしましたが、スチール製の針金でもシュカブラの中を歩行すると力がかかる

エッジから直ちに切断してしまうため、13:00に私と妻だけスキー場方面に往路を引き返すこととし、他のメンバーと別れました。



引き返す時点のビンディング(完全に前2本が浮いている)

一度避難小屋に戻らず浅い谷の中を東に進み、斜面が見えてきた辺りで進路を北向きに 変更して夏路があると思われる稜線に向かいました。

稜線上は、往路の際にはやや追い風でしたが、復路(鉄山 箕輪山)は北西からの向かい風となり、風の勢いは往路よりもかなり激しくなっていました。また、ガスと舞い上がった雪のせいか視界は一層悪化し、5~10m程度。場所によっては、すぐそこもよく見えない状態となりました。

悪いことに、ビンディングを固定している残りのネジ(後ろ2本)もぐらつきが激しくなり、後ろのネジについて何回も増し締めを試みましたが、ネジが効いている様子はありませんでした。結局、1本、2本と脱落して、稜線上で右側の板を履くことが出来なくなりました。

やむを得ず、左右の両板とも背負って歩こうと試みましたが、すぐに雪やシュカブラに 埋まってしまい、かなり時間と体力を消耗しますので、右足はツボ足、左足はスキーとし ました。

過去の経験で鉄山付近はコンパスや GPS が狂ってしまうことがあることを知っていましたが、やはり、昨日も GPS が利かなくなるときがあり、避難小屋~鉄山・箕輪山のコル付近で3回ほどワンダリングをしてしまいました。

ツボの右足は深雪では股まで埋まる箇所もあり、シュカブラの原因でもある灌木帯では 木の枝の間に足を落としてしまいます。深雪の下りは転がりながら全身で雪に埋まらない ようにして、足場のあるところ(足場のないところでは妻の板に足を載せて)を見つけて 立ち上がるという具合に進みました。登りはそれができませんので、片足だけラッセルを したり、引きづったりして進みました。

鉄山・箕輪山のコル付近で薄暗くなってきましたが、運良く夏路と夏路の道標(おそらく塩沢方面に降りていく分岐点)を発見しました。夏路はワカンやスノーシューの人も通っていますので、若干足場は踏み固められています。また、ルートも若干ですが分かりやすくなりましたので、雪やシュカブラを踏み抜いてバランスを崩すことがだいぶ少なくなりましたので、少しですが歩みが早くなりました。

スキー場と箕輪山の中間地点までほぼ等高線に沿って進みました。本来であればここからは、等高線真下に向かって進めばいいのですが、コルとスキー場との間には仏沢という沢がありますので、GPS を全く信用して下降してしまい、それが誤りであった場合は行くも戻るもできなくなり取り返しが付かないことになりますので、少しずつ高度を下げて北進することにしました。往路にCリフトから山頂に向かう途中で針葉樹帯があったため、行き過ぎないと考えました。(針葉樹帯にぶつかったら下降すればよい。)

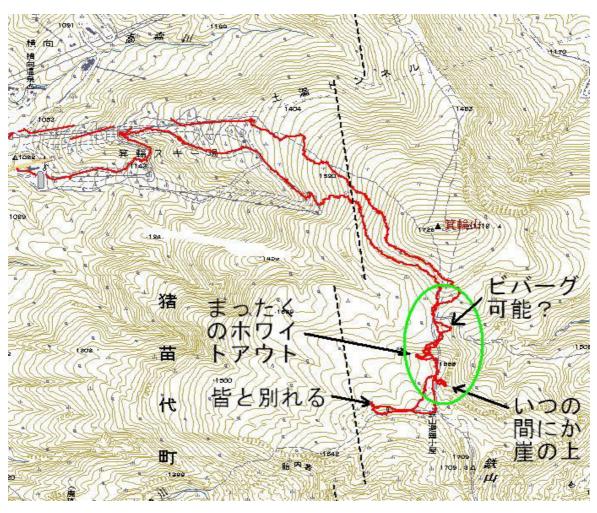
相変わらず視界はほとんどありませんでしたが、標高を下げるに従って下の方からスキー場のアナウンスや音楽が風に乗って聞こえてきましたので、片足スキーでジグザグ電光型に降りてゆきました。前述のように万が一方角を間違えてもリカバーできるようにという考え方です。

スキー場のゲレンデは、飛び出すほんの数 m 手前まで気が付きませんでした。スキー場は既に営業が終わっていましたが、リフト小屋に明かりが点いており、なんとかその明かりを頼りに降りることが出来ました。(我々がゲレンデに飛び出して 5 分も経たないうちにリフト小屋の明かりが消えましたので、かなり運が良かったと思います。)

スキー場内はシールを貼ったままの左足だけで滑降を試みましたが、既に左足の筋肉が 棒のようになっており、無理なため両スキーとも背負ってゲレンデ内をメンバーが待つ箕 輪リゾートホテル歩いて降りました。到着は日没後の17:30頃でした。



到着時の様子(中央の板を背負ったのが私)



行動のトラック(GPSから取得)

2.反省点・教訓

2.1 事前準備

前夜ビンディングの取り付き具合を手で確かめましたが、そのときはグラツキなどはありませんでした。これからは一歩進んで、ドライバーで増し締めをすべきだと思いました。

今回外れたビンディングは、穴の位置が共通だったので、自分で取り付けたものです。 素人作業が原因であった可能性は大ですので、これからは必ずプロに取り付けを依頼すべ きだと思いました。

POINT

そもそもビンディングの穴を兼用することはリスクが大きく、穴の位置を 5mm 程度ずらして装着すべきであり、仮に兼用するのであれば、ネジの径を大きくする、カールプラグを使用するなどの処置が必要との指摘がありました。(使用前に増し締めできるようであれば既に危険サイン。)

予備サングラスとして明るい色(オレンジ色)を持っていたのは本当にラッキーだと思いました。ただし、横から雪が吹き込んできますので、本来であれば予備ゴーグルがあればもっと良かったと思いました。

2.2 行動

とにかくあきらめずに「必ずスキー場まで降りる」という強い信念が大切だと思いました。また、視界が悪く、ワンダリングをしたり、ツボ足での進行が困難なときでも口の中で「冷静に、冷静に」と唱えて歩きました。全体的にはこれが良かったのではないかと思います。(スキー場に飛び出るまで焦らないように時計は見ませんでした。)

と相反しますが、ビバーグが可能なのは鉄山・箕輪山のコル付近を塩沢側に降りた 箇所だけのようです。本格日没になる前にそこを通過していますので、進むかビバーグす るか決断すべきだったと思います。

と相反しますが、「冷静さ」を心がけていましたが、アマチュア無線や携帯電話のことはすっかり頭から消えていました。スキー場から無線で呼びかけていただいたと後から聞き、無線の電源を入れておくべきだったと思いました。

現在位置が分からなくなることが多々ありました。このときは遠回りでももと来た方 角に戻ってやり直したのが良かったと思います。

2 台の GPS を見比べて、地形図と照らし合わせながら方角を決めました。やはり、普段から地形図やコンパスはすぐに取り出せる場所にしまっておくべきだと思いました。

足を捕られて何百回と転倒しましたが、そのたびに岩やシュカブラ、背負っている板 に頭を強打しました。ヘルメットは必携だと思いました。

強風のため背負っている板が風に煽られてバランスを崩して転倒をかなりました。思い切って背負っている板をデポした方が良いと思いました。

POINT

何事にも『落ち着いて』行動することが大切。(まずは深呼吸をしておしっこをするのも一考との提案もありました。)

そして、いざ、ビバーグが決まったら明るいうちに場所を確保して雪洞などの準備に取りかかることが重要。雪中ビバーグは、一度体験しておくといざというときに落ち着いて行動可能となると言われており、「ビバーグ体験合宿」もときには必要だと思います。

2.3 装備

極低温下でシール剥がれが起こりました。横着せずに初期の段階から応急シールを貼るべきだったと思いました。

テレブルは柄の長いドライバーでないと十分な締め付けが出来ないにもかかわらず柄の長いものを持参していませんでした。装備に合わせて補修装備もチェックすべきだったと思いました。また、アルミの針金は力の掛かる箇所は固定できないことも分かりました。太めの SUS 針金が必要だと思いました。

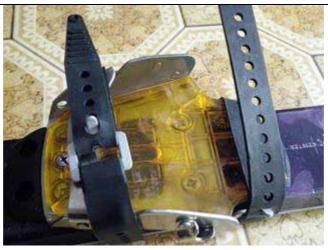
さらに、このような非常時には(穴の位置を変えて)タッピングネジも有効だと思いました。



POINT

1.ビンディングを板に固定する

外れたビンディングを板に固定する際、ゴムベルトなどによる固定は板の上をビンディングが移動して切断するので、ほぼ不可能とみるべきです。(針金を巻いて補強しても効果は薄いようです。)



一方、穴の場所を変えて、新たにタッピングネジでビンディングを固定する方法は、上から力を加えて押し込み気味にネジ込めば入りそうですが、相当な力と時間がかかりますし、力を加えると板に対して鉛直方向を出し続けるのが非常に難しく、仮にネジが入っても馬鹿穴になってしまうようです。(やはり、先にガイドが必要なようです。)



時間と労力をかける割には、効果があまりない方法なので、実際にはやらない方が良いようです。

また、板に貫通穴をあけてボルト・ナットでビンディングを固定する方法は、ドリルビットで穴を掘り進め、続けて + ドライバでこじりましたが、滑走面が思いの外堅くて貫通には至りませんでした。





この方法は確実な固定ができるので良い方法の1つだとは思いますが、相当な時間を要するようです。

2.ブーツを板に固定する

いただいたご意見を基にビニルテープでブーツを板に固定してみました。この方法は、 やってみるとかなり強力に固定できることが分かりました。





写真ではほんの5巻き程度しかしていませんが、かなりしっかり固定しています。完全に グルグル巻きにしたらかなり強力に固定できそうです。

ただし、やはり歩行をするとエッジ部分から切断するのではないか若干心配です。

シール剥がれ用の防水テープで補強したり、ビニルテープの上から針金で補強するのが 良いのではないかと思います。(針金が直接エッジに触れないので、針金が切断するまでの 時間が長くなるかも知れません。)





なお、針金で固定するときはペンチで捻ったくらいでは動くため針金の切断が生じることから使うならスパイキ等で強固に締め上げ上げないとダメとの指摘があります。

この方法の弱点は、一度固定したら容易には外せないという点です。これから進むべき ルート(沢の有無など)を勘案して実行すればかなり有効かと思います。

一方、ブーツをロープで板に固定する方法ですが、この方法でもかなりがっちり固定できています。エッジでの切断も他の方法より強いような気がします。また、(かなり面倒ではありますが)途中で外すことも可能です。ただし、ロープに雪が団子状に着くので、歩行は相当困難との指摘があります。





問題点としては、革靴の場合紐の締めすぎで血行が悪くなりそうな点です。プラブーツならほぼ心配なさそうな気がしますが、その点は注意が必要なのかも知れません。

あと、今回はブーツを脱いだ状態でロープを巻きましたので、操作性は良かったのですが、ブーツを履いたままでロープを巻くのは結構しんどいかも知れません。

なお、ブーツを板に直接固定するときに注意が必要だと気が付いた点が1つあります。 テレマークブーツの場合、先端が少し反り上がっています。



板と反り上がったブーツの底との間にウエスみたいなものを入れてから固定すれば一層 固定力が上がるのではないかと思います。

POINT

はじめからビンディングは外れたり、破壊するものという前提に立ってワカンなどをあらかじめ持参すべきとの意見もいただきました。アルミ製のワカンは、片足 200~300g です。深雪時のトラブルを回避できると思えばそう重い装備ではないように感じます。

ツアー中のビンディング故障・破損に対してはある程度対応できる装備・準備がありましたが、ビンディングが板から外れてしまう事態は、漠然とは考えていたモノの実感がありませんでした。これからはあらゆるリスクに対応できるようあらかじめシュミレーションしておく必要があると感じました。また、そのための装備が必要ですが、如何に最小限の装備で、最大限の効果を引き出すかが大切だと思います。そのためには使用できる装備の共通化、パーティー内装備の共有化が必要なのではないでしょうか?

長文を読んでいただきありがとうございました。